

各 四役、中執、単組委員長、地区港湾議長

全国港湾書記局

16港湾春闘情報(4)

1. 4月6日に第6回中央港湾団交(続開)を午後3時から再開した。日港協の回答に対して、修正回答を求めた結果、不十分ではあるものの、今の段階でこれ以上の前進は見込めないと判断した。残された課題については年内(12月)を目途に委員会等で検討し解決をめざすことで、概ね合意が得られたことから、17時25分に第6回中央港湾団交は仮協定を締結し、妥結した。これまでの経過については、FAX発信を参照されたい。
2. 各単組の取り組み状況について(4月8日16:00現在)
 - (1) 全港湾 基本給一律20,000円の獲得をめざし、2月26日までに要求書を提出、スト権の確立を行った。第1回回答指定日(3月25日)の回答は3,275円(昨年比1,087円減)と厳しい回答状況となった。闘争分会の回答状況は、329分会中70分会(21%)に有額回答が示された。
4月8日現在の回答状況、144分会中92分会(64%)に有額回答が示され、回答平均は3,535円率で、1.2%であった。(昨年回答平均額は4,087円、妥結平均は4,092円)
 - (2) 日港労連 基準内月額20,000円を要求、制度賃金6%引き上げ(基準内として)。定期昇給制度8,000円とする。2月2日に第1回港荷交渉を開催、主旨説明を行った。スト権委譲は2月26日に行った。
3月24日に開催した第1回港荷団交(4回目交渉)で、基準内定昇込1,500円を回答。労側は不満として返上、4月9日~11日72時間ストを通告した。
4月6日に第4回港荷団交(通算7回目交渉)で、基準内3,000円が提示され、妥結した。
 - (3) 検数労連 基本給一律20,000円要求。2月4日に要求書を提出し、趣旨説明を行った。2月18日に第2回労連団交を開催し、両協会に「基礎数字」「長時間労働実態」の報告を求めた。
3月22日に第4回労連交渉を開催、有額回答について、今日段階では具体的説明をできる状況にないとした。次回28日に有額回答を示すように強く求めた。
4月7日に第6回労連交渉を開催、両協会が有額回答を提示、日検が、2,445円、全日検が、1,200円を提示した。組合は有額回答に対して不満

であるとして、さらなる賃金引き上げを求めた。次回開催は4月15日を予定している。

- (4) 検定労連 海事検定職組一人平均 16,312 円要求、シンケン労組組合員一人平均 14,588 円を要求。2月23日に要求書の提出を行った。
3月24日に第2回労連団交を開催し、産別制度要求について考え方を質した。分母、定年延長、賃金の6%改定等を求めたが、中央団交の推移をみながら進めたいとした。その後、並行交渉に移行した。
海事職組は、4月7日に第5回交渉を開催したが、一定の考え方が示されただけで、有額回答は提示されていない。来週以降の交渉で詰めていく。
- (5) 全倉運 統一要求書は3月15日(火)提出、統一回答指定日を3月29日(火)賃上げ要求基準は、5%+ α で要求。
4月8日現在の回答
単純平均 24 組合 4,644 円(率で 1.77%) 前年 4,835 円/1.88%
加重平均 1,908 人 4,688 円(率で 1.82%)前年 4,718 円/1.84%
- (6) 大港労組 基準内月額 20,000 円を要求。2月23日(火)に第1回団交を開催し、要求書主旨説明を行った。3月7日(月)に第2回団交を開催し、1,000 円の有額回答を提示したが、拒否した。第3回は18日に開催したが進展なし。
3月25日に第4回団交を開催、500 円上積みの、1,500 円を回答したが、受取拒否。決裂し、スト通告を行った。
4月8日 16 時 45 分に、基準内 3,000 円で妥結。
- (7) 全日通 賃上げ要求は、11,000 円、一時金は、年間 140 万円を要求。2月15日に要求書を提出。交渉は毎週金曜日に行い、3月17日をやま場とする。
3月17日(木)妥結
<妥結内容> ① 賃上げ 4,900 円(内ベア 50 円)
② 一時金 年間 112 万円(夏 53 万円・冬 59 万円)

2. 他団体の賃上げ状況

(1) 連合

4月1日発表 平均賃金方式で、6,239 円 昨年同時期より、705 円減
300 人未満の中小労組で、4,954 円

(2) 国民春闘共闘

4月1日発表 加重平均で、5,745 円(2.07%) 昨年同時期より、160 円増

(3) 経団連

今年度は未発表 昨年実績 大手企業業種別加重平均 8,502 円(2.59%)

以 上